

ブドウ「シャインマスカット」のポット栽培による苗木育成時の土壌管理法

[要約]

ブドウ「シャインマスカット」のポット栽培による苗木育成時の土壌管理法は、栽培期間の窒素施肥量を 20g/樹、日かん水量を 2L/樹、土量を 20L/樹とすることが適当である。

茨城県農業総合センター園芸研究所

成果
区分

技術情報

1. 背景・ねらい

改植または新植した際に、その後早期に成園化することは果樹経営にとって極めて重要である。早期成園化の手段の一つとしては、新梢長の長い苗を密植する栽培方法が有効である。

そこで、ブドウ「シャインマスカット」において、定植時の植え痛みを軽減するポット栽培による育苗管理のうち、窒素施肥量、かん水量及び土量などを検討し、効率的な苗木育成方法を開発する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 1 樹あたりの栽培期間の窒素施肥量は、0g から 30g の範囲において 20g までが多いほど新梢長が長くなる(表 1)。
- 2) 樹体の生育(新梢長、節数、節間長、基部径)は、1 樹当たりの日かん水量が 1L に対して 2L 及び 4L で優れる(表 2)。
- 3) 樹体の生育(新梢長、節数、節間長、基部径)は、土量 10L に対して 20L~40L で優れる(表 3)。
- 4) 樹体の生育、節水及び運搬性を考慮した十分条件は、栽培期間の窒素施肥量を 20g/樹、日かん水量を 2L/樹、土量を 20L/樹とすることが適当である。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 本成果は、早期成園化を目的としたブドウの苗木生産に活用できる。
- 2) ポットは、不織布製などの排水性のよいものを利用する。
- 3) 本成果の施肥は、窒素は硫安を用いて栽培期間中に約 14 日毎に分施し、リン酸およびカリウムはそれぞれ重焼リンおよび珪酸カリウムを用いて全量を基肥に施用したが、被覆肥料(直線型、180 日タイプ)を利用しても同様の結果を得られる。
- 4) 本成果のかん水方法は、日かん水量を 6:00~18:00 に 72 回に分けて点滴(2ヶ所/ポット)で行った。

4. 具体的データ

表1 窒素施肥量の違いが新梢長に及ぼす影響

試験区	新梢長 (cm)	
	H21	H22
窒素0g	251	232
窒素5g	426	
窒素10g	514	728
窒素20g	752	782
窒素30g		663

注) 1: 試験区は栽培期間の1樹当たりの窒素施肥量を示す。 2: 窒素は5月～9月に約14日毎に分施した。リン酸およびカリウムは、10gP₂O₅/樹、20gK₂O/樹を全量基肥で施用した。 3: かん水は2L/樹/日とした。 4: 土量は40Lとし、土壌は淡色黒ボク土とパーライトを3:1で混合したものを使用した。 5: 台木は「テレキ5BB」を使用し、4月に定植し、6月上旬に穂木(緑枝)を接木した。 6: ポットはG社製不織布ポットを用いた。 7: 新梢は1本仕立てとし、副梢は3葉で摘心した。

表2 日かん水量の違いが生育に及ぼす影響(H22)

試験区	新梢長 (cm)	節数	節間長 (cm)	基部径 (mm)
1L	487	47.0	10.4	8.2
2L	754	63.3	11.9	11.1
4L	772	61.7	12.5	12.4

注) 1: 試験区は1樹当たりの日かん水量を示す。 2: 窒素は20gN/樹を5月～9月に約14日毎に分施した。リン酸およびカリウムは、10gP₂O₅/樹、20gK₂O/樹を全量基肥で施用した。 3: 土量は40Lとし、土壌は淡色黒ボク土とパーライトを3:1で混合したものを使用した。 4: 台木は「テレキ5BB」を使用し、4月に定植し、6月上旬に穂木(緑枝)を接木した。 5: ポットはG社製不織布ポットを用いた。 6: 新梢は1本仕立てとし、副梢は3葉で摘心した。

表3 ポット土量の違いが生育に及ぼす影響 (H22)

試験区	新梢長 (cm)	節数	節間長 (cm)	基部径 (mm)
10L	656	58.0	11.3	9.5
20L	746	63.4	11.7	10.7
30L	760	61.7	12.3	10.9
40L	782	63.7	12.3	10.4

注) 1: 試験区はポットの土量を示す。 2: 窒素は20gN/樹を5月～9月に約14日毎に分施した。リン酸およびカリウムは、10gP₂O₅/樹、20gK₂O/樹を全量基肥で施用した。 3: 土壌は淡色黒ボク土とパーライトを3:1で混合したものを使用した。 4: 台木は「テレキ5BB」を使用し、4月に定植し、6月上旬に穂木(緑枝)を接木した。 5: ポットはG社製不織布ポットを用いた。 6: 新梢は1本仕立てとし、副梢は3葉で摘心した。

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

ブドウの樹体ジョイントによる省力・早期成園化、高品質安定化栽培技術の開発・平成21～24年度・土壌肥料研究室